

平成29年度ウメ輪紋ウイルス対策検討会 概要  
(平成29年10月31日 開催)

I 報告事項

1 平成28年度の防除実施状況

農林水産省から、平成28年度の調査により判明した感染植物の処分結果等を報告した。専門家から、調査の詳細を確認する質問が出された。

2 平成29年度の調査結果

農林水産省から、前年度に引き続き、防除区域等において実施した感染植物の特定や根絶の確認のための調査結果について報告した。専門家から、調査の詳細を確認する質問が出された。

II 協議事項

1 防除区域の追加・除外

農林水産省から、平成29年度の調査結果を踏まえ、

① 新たに発生が確認された9市194大字を防除区域に追加、

② 根絶が確認された7市17大字を防除区域から除外、

する案が報告され、専門家から妥当と判断された。

(合計6都府県、23市町、588大字(前年6都府県、21市町、411大字))

2 強化対策の実施状況

(1) 強化対策の取組状況

農林水産省から、東京都青梅市及び兵庫県川西市で取り組む強化対策の実施状況を報告し、両地区において、

① 植栽したウメ実生苗でPPVの感染が認められなかった、

② アブラムシの寄生率調査の結果、寄生新梢率は判断基準と比べ十分低く

防除の効果が確認された、

ことが報告され、専門家から再植栽を継続することは妥当と判断された。

(2) 強化対策地区の拡大

農林水産省から、東京都青梅市における平成30年度からの強化対策地区拡大について報告され、専門家から地区の追加は妥当と判断された。

3 諸外国の取り組み状況

農林水産省から、諸外国の最新の取り組み状況について、一部の国ではPPVの危険度を再評価し、防除対策を見直して取り組んでいることが報告された。

4 今後の防除対策

(1) 平成30年度の発生調査及び防除対策は、現行の考え方を継続し、PPV潜伏期間を考慮した3年間の強化対策の効果も検証することが妥当と判断された。

(2) また、平成21年度に実施したPPVの病虫害危険度解析の内容について、①平成29年度までに得られた強化対策の結果(ウメ実生苗への感染は確認されず、アブラムシの保毒虫率は極めて低い等)、②ウメやモモの被害報告は国内で見あたらないこと、③諸外国で防除対策が見直されていることを踏まえ、改めて検討を行い、平成30年度の調査結果も考慮して取りまとめていくことが妥当と判断された。